

課題 10 . 思春期保健活動

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<p>1 思春期保健相談 一般県民、専門家からの保健医療相談、時間外電話相談における相談の実施</p> <p>2 思春期保健研修 思春期保健関係者への研修</p>
教育・研修	<p>思春期の健康課題としては、喫煙、飲酒、薬物使用、性行為感染症、さらにはこころの問題や不登校、いじめ、暴力、望まない妊娠、退学、父母になる準備教育とますます増えてきていて家庭、学校でその対応に苦慮している現状がある。</p> <p>健やか親子21では4分野の1つに思春期保健が取り上げられており、親子保健(母子保健)の活動分野においても重要な位置をしめている。</p> <p>今年度は思春期保健に関わっている地域保健、学校保健関係者を対象に研修会を開催し、指導技術の向上と関係者の交流連携の場とする。</p> <p>1 研修会 平成15年3月14日(金)午後1時から4時まで</p> <p>2 対象 思春期保健関係者 保健師(保健所、市町村)助産師、養護教諭等</p> <p>3 内容 1) 講演会「思春期の性の悩み」 講師 神奈川県厚木保健所保健予防課長 神奈川県立厚木病院泌尿器科医長 岩室紳也</p> <p>2) 性教育の実践活動の紹介 思春期ねっとわーく・あいち</p> <p>4 研修参加者236人 学校保健関係者145人、地域保健関係者等91人 職種別参加者は養護教諭136人、保健師67人、助産師16人、その他17人</p>
保健・医療相談	<p>平成14年度保健医療相談、時間外電話相談における思春期保健に関する相談件数は思春期相談53件で、そのうち性に関することは2件、精神的な問題は45件、その他6件である。</p> <p>直接的な思春期保健の相談は全体の2.5%と少ないが、女性の体と心に関する相談、妊娠、出産に関わること、育児相談の育児不安、虐待児等の問題の根底には、思春期保健の問題が深く関わっている。</p>

実施活動項目ごとの評価：思春期保健活動

課題解決のために 設定した活動項目名	思春期問題、育児不安に対する相談 学校、家庭での性教育関係者への思春期保健研修の開催
実施した活動の概要	保健医療相談、時間外電話相談において思春期の問題、子育て不安に対する相談 学校、家庭での性教育を推進するため養護教諭、保健師、助産師等の関係者を対象とした思春期保健研修会の開催
評価の方法・手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期における不安に対する相談 思春期保健相談件数の集計、分析 ・ 学校教育と地域保健の連携した性教育の実施の増加 学校、地域において思春期保健関係者への研修 性教育実施率の把握、推移 ・ 10代の人工妊娠中絶の低減 人工妊娠中絶率把握と推移
評価の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有用性 <ol style="list-style-type: none"> a. 数値目標等の達成度 思春期における不安に対する相談 学校教育と地域保健の連携した性教育の実施の増加 b. 愛知県の母子保健への貢献 10代の人工妊娠中絶の 学校教育と地域保健の連携した性教育の実施の増加 c. その他 子どもの虐待予防活動は思春期問題に深くかかわっている。 子育て環境の整備は総合的活動であり地域と学校、企業が連携して取り組む必要がある。 2. 問題点 思春期の問題は個人的価値観や間違った情報が流れていて、思春期の悩みを増幅している。科学的な情報と男女両性の理解が必要である。関係者も共通理解と自信をもって教育していない現状がある。関係者の協力、役割分担ができていない。 思春期保健は関係者の性、生教育の技術のレベルアップと共に子育て環境の整備は総合的活動であり地域と学校、企業が連携して取り組む必要がある。 3. 事業継続に関する意見 思春期保健は生、性教育が根幹をなしている。地域、学校で科学的な情報を伝え、生きる力を育てる活動を継続する必要がある。

	実施日時	平成15年3月14日(金) 午後1時から午後4時まで
	講師	岩室紳也 神奈川県厚木保健所保健予防課、神奈川県立厚木病院泌尿器科医長
	講演主題	「思春期の性の悩み」
	参加者数	236名 (対象職種等) 養護教諭、保健師、助産師等
講演会	<p>講演内容の要旨</p> <p>思春期の性の悩みで多い相談と対応、思春期問題を科学的に教える。 性の問題に関わっている人は役割分担を認識して欲しい。学校では性に関わる教育をどんどん行う。保健関係者は学校と違うことを行う。 性の悩み 子どもは何で悩んでいるか。間違っただけから子どもを救う。男の子の性教育はお父さんではだめ、悩んでいる男のひとが性教育をできるか。自分の経験では語れるが悩んだことのないことは話せない。異性の人が勉強して「こうらしいよ」と正しい情報を教えてあげる。どういふことがあるかわからないから教えてあげるのが性教育。女の子の性、月経のつらさ、パートナーへ月経とどう向き合うか教えてあげる。悩まなくてもいいことは悩まない。男の子、女の子の性教育でその性の子に話ながら、異性の子にも聞いてもらっている。相手の性を知ることになって、男女で話を聞くことはよい。子どもへは笑わずに科学的にいう。事実を淡々という。あいまいなことをいう性教育をそろそろ変えていく必要がある。 目指すもの：「その人が納得できる人生」 科学的に教育：プライバシーは内緒でよい。価値観をおしつけない。中絶した子、エイズ感染者、性交した子が聞くとつらくなる。余計なこと、あいまいな情報でなく、必要な情報をつたえる。 性感染者への対応「感染したらしたで仕方ないね」個人的価値観として受け止め、科学的な情報で伝える。そうすれば、子どもの悩みは救われる。 1包茎 2月経、夢精 3オナニー、マスタベーション 4妊娠、性感染症 5エイズの感染予防の具体的指導、対応について講演</p> <p>活動報告 ネットワーク・あいちの活動</p> <p>保健師、養護教諭、助産師等の集まり会を立ち上げ1年が経過した。研修会、出前講座、教材づくり、ピアカウンセリングの養成等の活動を紹介。今後は資質の向上とネットワークづくりをめざしている。</p>	
	<p>主な質問と回答</p> <p>A ピアカウンセラーの養成について Q 対象を何処にしぼるか。医学的な研修を省略するため看護学生を考えている 岩村：行政は枠を作って養成しようとする。簡単な3時間でピアになれるような講座でよいのでは。愛知から発信しては？</p>	

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価 アンケート回収数：148枚(回収率62.7%)

研修会名	平成14年度思春期保健研修					
研修者の職種	地域保健機関：保健師49人、助産師8人 学校保健：養護教諭85人、教諭1人、事務1人、学校カウンセラー1人 不明3人 計148人					
研修者の年齢分布	20歳代：17人、30歳代：37人、40歳代：55人、50歳代：14人、 不明25人					
研修者の性別	女性：132人 男性：1人 不明 3人					
アンケート質問項目		1 よい	2	3	4	5 わるい
		未記入				
	1. 研修全体のプログラムは？	84(56.8%)	46(31.1)	11(7.4)	1(0.7)	0
		6(4.1)				
	2. 「思春期の性の悩み」の講演はいかがでしたか？ 1非常に参考になった 2参考になった3まあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	115(77.7)	28(18.9)	3(2.0)	2(1.4)	0
		0				
	3. 性教育の実践活動の紹介はいかがでしたか？ 1非常に参考になった 2参考になった3まあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	19(12.8)	77(52.0)	42(28.4)	3(2.0)	0
		7(4.8)				
4. 思春期保健ねっとわーく・あいちの性教育の実践活動について感想、気づきがありましたらお聞かせください。 1あり 5なし	51(34.5)				70(47.3)	
	27(18.2)					
5. あなたは小学・中学・高校生・大学生等の性教育を実施していますか 1今年度実施している 2過去に実施した 3これから実施する予定 4実施したことがない 5今のところ実施する予定がない	68(45.9)	25(16.9)	17(11.5)	21(14.2)	21(14.2)	13(8.8)
	4(2.7)					
6. 性教育を実施するうえで困っていることはありますか 1ある 5ない	94(63.5)				38(25.7)	
	16(10.8)					
7. 今後思春期保健にとりいれて欲しい内容はありますか 1ある 5ない	74(50)				43(29.1)	
	27(18.2)					

<性教育するうえで困っていること>養護教諭

- ・中学生の実態が自分でまだわかっていない。どのような計画がよいのか。時間の確保に自分のポリシーがはっきりしていないことがわかった。
- ・性のとらえ方に幅がある。指導者の考え方必ずしも正しいとは限らないという意見あり。
- ・子どもにわかりやすいことばで「性」を伝えていくことは難しい。何を伝えたいのかもっと検討していきたい。
- ・子ども達はすぐに「いやらしい」というイメージを抱き、小学高学年ほど難しい。子どもたちが意見を言いやすい授業づくり。環境づくり
- ・かまえてしまう。詳しいことをさけてしまう。その場限りのものになってしまう。継続、定着しない。
- ・時間が取れないこと「寝た子をおこすな」的考え方の教師がいる。他の教師の理解が低い。他の教員の理解を得ることと時間の確保。他教員の協力が得られないこと。
- ・時間の確保が難しい。担任の先生になかなか時間をとってもらえない。担任との連携
- ・発達段階が個々で差が大きいので焦点が定まりにくい。何をどのように教える。どの時期に何をとりあげるかなどもっと勉強しなければと思っている。技術、話術、新しい情報
- ・何からとりかかっていこうか。自分の中で知識不足を思っている。しかし、学校の中の組織を作っていくことを考えている。職員の意思統一、共通理解
- ・性交の伝え方（小学生）。性交についてどの程度を教えるのか。用語の使い方
- ・自分の知識や技術を高めたい。その場がほしい。よい教具がないし作っている時間がない。
- ・よい講師を知りたい。内容検討等 指導案づくり、教材、資料づくりに時間がかかる。科学的根拠をしっかりと。より効果的な教材づくり。指導内容、男子の悩みについての指導に自信がない。
- ・一斉指導をした場合理解の個人差 個別指導の必要性、
- ・効果的なエイズ指導、性の逸脱行動をとる生徒の個別指導のあり方
- ・構えてしまう親、大人への対応、母子家庭、父子家庭が多く愛情、支えなど教えるのに困難なことがある。いろいろな家庭、保護者の考えがあり、指導するのに困難なときがあった。

<性教育するうえで困っていること>保健師、助産師等

- ・年齢に合わせた媒体づくり ・保健センターで行う、性教育の内容
- ・性教育のできる人材の情報がない ・導入の仕方、プログラム、最近の知識
- ・まだ、自分の中に構えがある ・学校、PTAへの理解を得ること
- ・単発の教育であり、教育の効果がわからない。
- ・予算が少ない。使いづらい。講師の謝礼金が少ない。
- ・今やっていることがいいのか。他の人はどんな話をしているのか。指導内容がこれでいいのかいつも疑問に思う。 ・教育側の意識改革、認識の甘さ、ためらい。
- ・寝た子を起こすなという考えを周囲が持っているため、目的や必要性を伝えても理解が得られないと感じている。

<今後思春期保健研修に取り入れて欲しい内容>

- ・思春期の心、臨床心理 ・性教育 ・男子への指導 ・性教育資料、教材づくり ・喫煙、飲酒
- ・食生活、生活習慣予防 ・性感染症、エイズの最新知識 ・年齢にそった性教 ・小、中、高の性教育の内容 ・ピアカウンセリングの進め方